

## SPECIAL REPORT

## 平成29年度酪農教育ファーム認証研修会の概要

本会議と酪農教育ファーム推進委員会は、平成29年度酪農教育ファーム認証研修会を東京（平成30年1月25日～26日、港区立港勤労福祉会館）、大阪（同2月8日～9日、貸し会議室ユーズ・ツウ）、札幌（同2月22日～23日、北農ビル）、で開催した。3会場では、書類審査を通過した酪農教育ファーム・ファシリテーター候補者が受講生（合計45名）となり、最近の酪農情勢、酪農教育ファーム活動の概要、活動における安全・衛生対策、ファシリテーターの役割などについて学んだ。

## 1. 最近の酪農をめぐる情勢等の説明

研修会の冒頭で本会議職員が、国際乳製品市場の動向、わが国の生乳需給構造の特徴、指定団体と酪農の役割、生乳流通制度改革（畜安法改正）のポイント、新制度スタートまでのスケジュールなど最近の酪農乳業をめぐる情勢について説明した。そのうえで、酪農をめぐる情勢がいつそう厳しさを増すなか、酪農教育ファーム・ファシリテーターには、「酪農家の仕事や酪農が有する多面的機能などを消費者に発信する」という重要な役割があることを強調した。また、その成り立ち、活動の目的と仕組み、現状など酪農教育ファーム活動を行う上での基本的な事項について説明した。

## 2. アイスブレイキング「やぐら鶴」

参加者同士が打ち解け、研修会の場を和ませることを目的にアイスブレイキング「やぐら鶴」を行った。「やぐら鶴」は、宮崎県での口蹄疫発生の際、見知らぬ者同士の急ごしらえのチームの“チーム力”を磨くために考案されたアイスブレイキングの手法である。これを通じて、コミュニケーションがとりやすい雰囲気と、目的達成に対する積極的な関わりが生まれるとともに、「やぐら鶴」の本来の目的である情報の共有、作業の分担、想定外の事態への対応、リーダーシップとフォロワーシップといったチーム活動に必要なスキルを参加者自らが体感し、学んだ。

## 3. 認証牧場における安全・衛生基準に関する講演

## (1) 東京会場

千葉県農業共済組合連合会・中央家畜診療所・係長の島田 亘氏が、安全な酪農体験にするための対応ポイント、動物由来人畜共通感染症への対策、牧場（酪農）に特に関係の深い家畜伝染病（口蹄疫等）の予防対策、生乳の衛生的な取り扱い方、手作り体験で共通する注意点などについて講演し、最後に、山羊の胎盤には悪性カタ

ル熱の原因菌がいるため、山羊を飼っている牧場では牛に感染しないように分けて飼うことの重要性を強調した。

質疑応答において、牧場外、学校などで酪農体験を行う場合、手洗いや足踏み消毒槽などの動線については、学校側と十分打ち合わせすることが肝要であると説明した。



島田先生の講演風景

## (2) 大阪会場

愛知県学校給食牛乳協会・事務局長・木島秀雄氏が、酪農体験における注意点等について講演した。質疑応答において、知的障がい者の場合、我々が常識と思う物事でも判断できない可能性がある。例えば手洗いをしてくださいと口頭で説明してもきちんとした手洗いができないかもしれない。その点に、特に気を付ける必要があることを指摘した。

また、科学的な根拠がある話ではないが、個人的には、現代の子どもたちは、昔の子どもたちに比較して不衛生な物に触れる機会が少ないので、抵抗力が弱いのではないかと感じていると、乳幼児を牧場に受け入れる際の問題に言及した。



木島先生の講演風景

### (3) 札幌会場

酪農学園大学・獣医学群・獣医学類・獣医細菌学ユニット・講師の村田 亮先生が、酪農体験における注意点等について講演した。講演では、細菌学が専門の講師から、とくに感染症予防について、感染症の成立要因（感染源、伝播経路、感受性宿主）のどれか一つでも無くせば予防できることについて分かりやすい説明がなされた。

質疑応答において、バーベキュー施設と牛舎とが隣接している場合について、ルートが問題なのであって、その間にきちんと手洗いでできるようになっていれば距離は問題ではないと見解を述べた。

また、消石灰の消毒効果について、即効性があまりないというデータもあるし、コンクリートやアスファルトにずっと使っていると目詰まりを起こして排水が悪くなるという問題もある。「消石灰だけで、常に」ではなく、消毒液として売られている薬剤と併用するのがよいのではないか。ただし、口蹄疫が発生した場合は消石灰が一番よいといわれており、国も推奨していると説明した。

さらに、海外からの酪農体験や研修等の受け入れについて、酪農学園大学では、入国して2週間以上経過していれば受け入れていると紹介した。



村田先生の講演風景

## 4. 「ファシリテーターの役割」を学び合うワークショップ

### (1) 東京会場・大阪会場

合同会社むすび・パートナーCEOの石川世太氏を講師に迎え、ワークショップ（酪農教育ファーム・ファシリテーターの役割）を行った。

石川氏の自己紹介の後、会話・議論・対話の違い、インタビューをするときに大切にしたいこと等について、グループに分かれて体験（学び合う「グループワーク」）した。続いて、石田牧場における酪農体験のDVDを視聴し、良かった点やさらに知りたい点などをワークシートに整理した。これを基に、共通の問題意識をもつ参加者がグループとなり、深めたい話題について意見交換した。最後に、「酪農教育ファーム・ファシリテーターの私とは、一言でいうならば〇〇」と題して、自分自身の意見を発表した。



参加者の皆さん（東京会場）



参加者の皆さん（大阪会場）

### (2) 札幌会場

NPO法人いぶり自然学校・代表理事の上田 融氏を講師に迎え、ワークショップ（酪農教育ファーム・ファシリテーターの役割）を行った。上田氏の自己紹介と講義の後には、参加者同士が意見交換をしながら、「自分はなぜ酪農教育ファーム活動を行うのか」という各々の目的や目標の明確化と、その目的に到達するための体験コンテンツの洗い出しを行った。最後に、参加者全員が、目的に到達する第一歩として、自分は牧場に戻って何をするかを考え、参加者全員に披露して問題意識の共有を図った。



参加者の皆さん（札幌会場）